

「食」とは、お腹だけでなく心を満たすもの。大切なしたい伝統調味料の魅力を新しい視点で発信

かがわ発!
元気創出
企業

小豆島で130年続く醤油蔵の5代目として生まれ、小さなころから「醤油屋になる」と決めて大きくなったという藤井寿美子社長。長く培ってきた歴史と伝統を大切にしながら、これからの時代のニーズに合った商品を生み出していくその発想とは——。

金両株式会社

代表者 代表取締役 藤井寿美子氏
所在地 香川県小豆郡小豆島町馬木甲842-1
電話番号 (0879)82-3333
URL <http://kinryo-shoyu.co.jp/>



▲国の登録文化財にも認定されている醤油蔵と直売所。築100年以上の風情ある建物で醤油がじっくりつくられています

香川県内の元気な企業を訪問し、発展してきたこれまでの過程と躍進し続ける現状、そして未来への指針についてお聞きする「かがわ発!元気創出企業」。

今回取材させていただいたのは、明治13年創業の醤油製造業「金両株式会社」。美しい島の風景にとけこむ趣ある醤油蔵を訪ね、5代目当主である藤井寿美子社長にお話を伺いました。

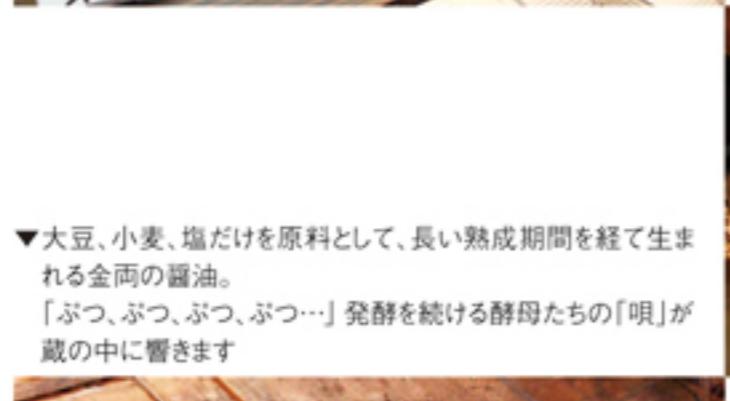


代表取締役
藤井 寿美子 氏

◆藤井寿美子社長の名刺の肩書には「金両醤油五代目当主修業中」の文字。まだまだこれからも修業中です、とニッコリ



◆香川県産のニンニクをオリーブオイルで煮込んだ「ガーリックオイル」が、野菜ソムリエ協会が主催する「ときめき調味料選手権」サラダ部門で最優秀賞を受賞



◆醤油の香りあふれる蔵の中、100年以上酵母たちが棲みついでいます



▲国の登録文化財にも認定されている醤油蔵と直売所。築100年以上の風情ある建物で醤油がじっくりつくられています

入社当時は卸売が中心。 即席の販売所から直売スタート

藤井寿美子さんが銀行勤務を経て、家業である金両株式会社へと入社したのは今から20年ほど前。子どものころから漠然とは跡を継ぐのだと決めていたといいますが、実際に入社して見えてくるものも。入社しばらく経ち、藤井さんは気づきます。それは、進物などが増えるはずの夏に売り上げが伸びない、ということ。当時の金両は製造卸が専門。進物等の受注はしていませんでした。「小さいころからうちの醤油を使っていましたから、私自身は、その良さを知っています。だけれど人には知りていただけていないんだと気づきました。ちょうどそのころ、小豆島でも製造直売のお店を併設するところが始めていて…。うちも道路に面した立地を活かして小売りをしよう、と思ったんです」。とはいって、売るスペースもない状況。そこで、道沿いに商品を陳列する台を出して、小売りを始めたのだとか。パラソルを立てて販売する姿を見て「金両は小売りもしている」と徐々に認知されていったといいますが、夜になれば片付け、雨が降れば片付け、という状態から、出荷場を改装した現在の直売所に移るまで5年かかったそう。

それが「金両の醤油をもっと知りたい」と願う藤井さんの「細腕繁盛記」のスタートでした。



▲センスよくディスプレイされた直売所。藤井社長直筆のポップが光ります

醤油なんて必要ない!? お客様の一言から始まった商品開発

ある日、お土産を買いに訪れた若いお客様の会話をふと耳にした藤井さん。「醤油は要らないよね。使わないから」。「うちのが、お醤油が、ということではなく、日本の伝統的な調味料である醤油が、若い世代に『必要ない』と思われていることに衝撃を受けました」。そこで、見直したのがパッケージ。昔ながらの瓶を使いやすい瓶に変え、パッケージデザインも粋なものへ。瓶選びからパッケージの筆文字まで藤井さん自ら手がけます。「デザインをお願いする余裕がないから」と藤井さんは笑いますが、一つひとつじっくりと時間をかけて創り上げてきたことが、商品群を見るだけで伝わります。例えば卓

上用のミニボトルにはほのぼのとした家族のイラストが。おしゃれなバスケットに入り、さり気なくリボンが付いたギフトセットも女性を中心に好評。さらに年末に誕生したのが、お土産として人気のコロンとした小さなボトル入りの醤油、だし醤油、ガーリック油のセット。今では若い層も買っているそうです。

「古いものを大切にし続けながら、新しいことをしていく、それが古くから受け継いでいるものを次の世代へつなぐということだと思うんです」と藤井さんはほほ笑みます。

昔ながらの製法を守ることが長く愛用くださるお客様への感謝の証

柔軟な発想で次々と新しい商品を生み出し、金両醤油の良さを伝えている藤井さん。入社当初は卸売りがほとんどだった売り上げも、現在では直販やお取り寄せなどが全体の8割を占めるようになりましたといいます。今後は海外での日本食ニーズに応えられるようにも展開を考えているそうです。

一方、昔ながらの杉桶での製法など、変えないとこころはずっと変えないと話す藤井さん。「三世代にわたって金両の醤油を使っているというお客様にお会いすることもあります。ずっとお付き合いいただける理由は、長い間、守り続けてきた製法があるからこそ。応援してくれているお客様のためにも、金両の味を守り続けなければ身が

引き継まります」と話します。一昨年、息子さんが生まれた時も「まるで家族のようにお客さまが喜んでくれた」と顔をほころばせる藤井さん。経営者である前に、いち人間として、お客様との関係を大切にしたいと話してくれました。

後日、記者の家のポストに藤井さんからハガキが届きました。そこにはあたたかな直筆のメッセージ。それこそが、金両と、そして藤井寿美子社長のファンが増え続ける秘密なのでしょう。



▲直売所には、酵母菌が住み着いた杉桶でつくられた金両の醤油がいろいろ試せるコーナーも設置

特集

“これからの中の本県経済を支える企業経営者と知事との意見交換会”を開催!!

(公財)かがわ産業支援財団では、今回で10回目となる企業経営者と知事との意見交換会を、昨年12月18日、高松市内のホテルで開催しました。

今回は、昨年7月に県が中長期的な視点に立った戦略的な産業振興の指針となる「香川県産業成長戦略」を策定しましたので、成長戦略に掲げる今後の成長のエンジンとなる「食品・バイオ」、「健康」、「ものづくり」、「エネルギー・環境」などの分野を担う企業経営者をはじめ、今後の本県の成長を担うことが期待される若手経営者や女性経営者ら18名にお集まりいただき、県からは浜田知事、天雲副知事、伊勢野商工労働部長、財団からは中山理事長、さらにオブザーバーとして県内中小企業の経営者ら8名が参加し、活発な意見交換が行われました。



▶ 株ルーヴ

野崎 幸三 専務取締役



弊社は、かがわ産業支援財団の新分野チャレンジ支援事業を活用して希少糖含有食品の製品化に成功したが、この希少糖について、県内外に向けたPR活動やメディアを通じてその周知に努めて欲しい。

最近、希少糖の注目度が一気に高くなっています。正確な機能性や各商品の含有量の相談窓口などを専門的に対応する部署やこれに特化した知識と情報を持つ県職員の充足と窓口の一元化をお願いしたい。

▶ 知事

希少糖は食品だけでなく、バイオ、医薬などにも可能性を秘めているので、香川大学と一緒に研究を支援していきたい。

希少糖のすばらしさを情報発信するため、テレビなどのメディアを活用した効果的なPR方法を検討するとともに、希少糖専用のホームページを立ち上げ、一元的に行いたい。

また、香川大学や研究機関、関連企業等の間での必要な情報の共有や情報発信に努めるほか、県産業政策課の体制強化についても検討したい。

▶ 株サンテック

青木 大海 代表取締役



弊社は全国のプラント機器の製造をしているが、技術力を伝承していくことは本当に難しく、企業の永続性の観点からも、職人の確保や人材確保は難しい課題の一つである。こうした中、県内でも、M&Aを希望する会社や後継者のいない工場の売却を検討している企業は少なくない。

中小零細企業では人的制約もあり、M&Aに関する情報を一元的に集約し、相談できる窓口情報センターを行政側で設置していただきたい。このことが中長期的に見て、本県のものづくり産業の礎になるのではないか。

▶ 知事

中小企業庁では、後継者不在などで事業の存続に悩んでいる中小企業の相談に対応する「事業引継ぎ相談窓口」を設置しており、本県では高松商工会議所が相談窓口になっている。また、かがわ産業支援財団でも後継者の育成のための各種経営や技術研修を受講する際の費用の一部を助成している。

県では、立地動向など企業情報を積極的に収集し、ホームページを活用した空き工場用地情報の提供や企業からの問い合わせに応じたマッチングも行っている。

また、市町とも連携して、「香川県企業立地ワンストップサービス窓口」を整備し、用地紹介や各種行政手続きの支援など、きめ細かな対応をしており、事業承継についても相談に応じられるよう研究していきたい。

▶ 株藤田製作所

藤田 和也 代表取締役



規模の小さな企業では、人件費の安い国に進出し、価格を下げることは難しいため、どのようにすれば日本でやっていけるかを考えなければならない。

小規模でも技術力のある企業が高級車を製造しているヨーロッパの例もあり、大量生産しなくても収益をあげている小規模企業から学ぶことは多い。

海外ミッションの行先として、低賃金のところだけでなく、ヨーロッパのような先進国も加えて欲しい。

▶ 知事

価格競争で体力を消耗するのでは将来が見えないので、高付加価値な製品づくりを目指すという視点は重要である。産業技術センターを中心に技術開発の支援を行っており、各企業のニーズに応じた積極的な支援を行いたい。

今年度の海外ミッションはインドネシアへ行ったが、高付加価値化の点で、ドイツなどヨーロッパへの視察も意義があるので、県内中小企業の中核的技術者の海外視察ができるか検討したい。

▶ 金両株

藤井 寿美子 代表取締役



弊社は伝統調味料である醤油を製造しており、女性の目線で特に女性が手に取ってくれる商品作りを心がけている。

女性が社会進出できる環境づくりや病児保育の充実など、女性の雇用につながる制度が必要であり支援をお願いしたい。

▶ 知事

発酵食品研究所では桶醤油のブランド化を支援しており、本物志向の商品開発を一層支援したい。

子育て中の女性が仕事と家庭を両立できる環境を整備するため、「一般事業主行動計画」の策定支援や社会保険労務士による出前講座、優良企業の表彰などを実施している。

病児保育については、県内15施設のうち小豆島に2施設あり、制度・施設の周知や第3子以降3歳未満児の利用料の無料化を実施している。

保育所や幼稚園は各市町の担当であるが、市町が独自で実施できる取組みを支援したい。

▶ 株tao.

久保 月 代表取締役



① 弊社の女性スタッフ2人が結婚するが、彼女たちが続けて働くためには、末永く働ける環境づくりが急務になっている。安心して働ける育児環境を作りたい。

② 県指定の伝統的工芸品は37品目と数は全国的に見ても多いが、製作者の高齢化や後継者不足など明るい材料は少ない。

本県の伝統的工芸品を後世につなげる仕組みづくりが重要であるが、「うちわの港ミュージアム」や「香川県漆芸研究所」はうまく情報発信している。他県では伝統的工芸品を展示紹介する場所が観光地にあったりする。本県でも37品目を展示してその背景を伝える場があれば、伝統的工芸品をセレクトして個々に発信している私どもと上手くかみあって、もっと発信力が強まると思う。

▶ 知事

① 働く女性を支援するため、県内企業の「一般事業主行動計画」策定を推進しているほか、子育てしやすい職場環境の優れた取組みをしている127社に「認証マーク」を交付した。各市町の保育所と幼稚園の取組みを後押ししていきたい。

② 県の商工奨励館は平成26年度中にリニューアルオープンの予定であり、改修後は伝統的工芸品の展示や伝統工芸士による実演を行う予定である。

「栗林庵」や「サン・クラッケ」において伝統的工芸品を取り扱い、情報発信しているほか、高松三越では「香川の伝統的工芸品展」を開催し、展示、販売などを実施しており、様々な取組みに対し県も支援していきたい。

▶ 帝國製薬株

藤岡 実佐子 代表取締役社長



① 希少糖はダイエットや糖尿病などの効能が先行しているが、臨床などの研究を十分に進め、慎重に確認してから公表するなど、マスコミ等に正しい理解を得られるよう努めていただきたい。

② 本県は糖尿病の罹患率が全国上位になっており、糖尿病対策として、本県の野菜をたくさん食べようというキャンペーンをぜひやっていただきたい。

③ 濑戸内国際芸術祭は世界に向けて、モダンアートの鑑賞の場を提供し知名度を上げている。今後も現代アート作品の展示場所を提供するなど、アート資源の充実を図り、アート県として売り出して欲しい。

▶ 知事

① D-プシコースは「食後血糖値の上昇抑制効果」などの

作用が確認されているが、きちんとした情報発信に努めたい。

- ② 野菜たっぷりでバランスのよいメニューを提供するお店の登録制度を設け、現在45店舗が登録されている。また、本場さぬきうどん協同組合と協力して「さぬき野菜うどん」のメニュー開発や販売を行っており、今後とも関係機関などと連携しながら野菜の摂取量を増やす取組みを行っていきたい。
- ③ 瀬戸内国際芸術祭の作品を継続して展示したり、芸術祭で得られた貴重な経験を活かすとともに、県内の美術館などの魅力を情報発信し、本県を「アート県」として国内外に向けてPRしていきたい。

▶ 株STNet

中村 進 取締役社長



県民や地元企業のIT化は全国的に見ても、必ずしも進んでいるとは言えない状況にある。IT関連産業は雇用創出力が高く、成長の可能性が高いため、本県の発展に大きく貢献すると考えられる。

地元IT企業を育てるとともに、伸び盛りのIT企業を誘致し、これらの企業で働く人材の育成をお願いしたい。

▶ 知事

地元IT企業の育成については、かがわ中小企業応援ファンド事業などを活用するとともに、健康関連IT製品の開発については、医療情報ネットワークであるK-MIXを核にした企業などの支援を推進していきたい。

IT企業の誘致については、企業誘致条例に基づき、誘致や立地支援に取り組んでいる。

特に観光面ではWi-Fi環境を整備することにより、例えば直島で撮った素晴らしい写真を世界に発信してもらえばその効果は大きい。

長期的なIT人材育成については、特に高等学校の段階で情報に関する授業を必修科目として、効果的にコミュニケーションを行うために必要で基礎的な知識と技術の習得に努めている。

▶ 吉原食糧株

吉原 良一 代表取締役社長



讃岐うどんブームが続いているが、大手チェーンからも「さぬきの夢2009」が欲しいとの要望がきており、現在の5,000t以上の収量を確保することが必要である。農林水産省による法人化への助成金が平成28年度までの見込みだが、その後も作付面積を維持していただきたい。

香川の小麦は特性があり、それを大切にして現在の収量を将来にわたり確保して欲しい。

▶ 知事

国ではコメの生産調整を見直すなど農政が急展開しており、またTPPは香川にとって不利になるところが多い。それらを克服して、自立できる農業を目指すため、「さぬきの夢2009」を県産ブランドとして確立し、讃岐うどんの本場の小麦を伸ばすため取り組んでいきたい。

また、コメも特色を出さないと、このままでは耕作放棄地が増える懸念があり、「おいでまい」の生産拡大にも力を入れていきたい。

▶ 株イヅツみそ

久保 将人 代表取締役



市場から産地を指定したプレミアム商品の要望があり、正月に本県産のコメと大豆を使用した「さぬき白みそ」の販売を計画したところ、コメは入手できたが、1トン程度の大豆の手配ができず、商品企画を棚上げせざるを得ない状況になった。

農業政策には、困難な点も多いことは承知しているが、県産大豆の確保についての考え方をお聞きしたい。

▶ 知事

香川の伝統食品である「さぬき白みそ」の必要性は認識しており、本県産の大豆の生産と流通にどのような課題があるのか調査するとともに対応を検討したい。

▶ 株ちよだ製作所

池津 英二 代表取締役



エネルギーと環境関連分野は「香川県産業成長戦略」の成長のエンジンとなる分野に位置づけられている。弊社は廃棄うどんを主原料にしたバイオエタノール生産技術の開発などエネルギー・環境産業に一生懸命に取り組んでいるので県からの支援をお願いしたい。

▶ 知事

エネルギー・環境関連分野でユニークな取り組みをしていたいっているが、県商工労働部やかがわ産業支援財団には様々な支援メニューがあるので、現在の打開策をどのように考えているのかご相談していただきたい。

▶ 高木綱業株

高木 敏光 代表取締役社長



弊社は特殊ロープを製造しているが、従業員の年齢構成が50～60代と新卒採用者の若手のグループになっており、技術の継承など世代交代の対応に苦慮している。

県内の新卒者や中途者を採用するとともに、「jobナビかがわplus」を活用しUターンやIターンに取り組んでいるが、中間層の拡充がうまくいっていない状況にある。従業員の確保にチャレンジしている県内中小企業の支援をお願いしたい。

▶ 知事

UターンでもIターンでも、本県では就職希望者は多いが受け皿になる企業が少ない状況にある。東京や大阪などからの就職希望者の発掘とそれを迎える企業の求人・求職の両方を専門的ニーズなども考慮しながら、個別にマッチングする必要があるので、他県の取組みも調べ、やり方を工夫して対応したい。

▶ 四国化工株

入交 正之 代表取締役社長



弊社は多層化技術を核とした高機能フィルムとして、食品分野では真空包装用フィルム、医療分野では輸液バッグ用・透析液用フィルム、電子材料分野ではクリーンフィルムなどを製造しており、フィルムの製法上プラスチックを溶かすための“電気”、また溶けたプラスチックを冷却するための“水”を必要としている。

夏場の雷により瞬間停電すると製造設備のモーターが停止し、また渇水時には水圧が低下し冷却ができず、フィルムの生産を止めざるを得ない。

昨今は取引先から企業継続計画(BCP)の提出を求められており、夏場の危機に対して製法も検討する必要もあると思うが、BCPの観点から瞬間停電のない電気の安定供給についての県からのバックアップと我々が住む東かがわ市へ市水の安定供給についてのアドバイスをお願いしたい。

▶ 知事

東かがわ市の水道事業の状況は承知していないが、一般的には昨夏の渇水でも節水をお願いしたが、洗車とかプール使用を控えていただく程度である。

断水等で操業が問題にならないよう、計画的に水不足対策に取り組んでいるところであり、具体的には企業立地推進課と相談していただきたい。

▶ 七王工業株

宮家 登 代表取締役社長



弊社は建築用防水シートを製造しているが、新しく県の地域企業競争力強化推進事業の認定を受け、畜産試験場や農業試験場の指導を受けながら、果樹園用の防水シートや太陽光発電所用の防草シートを開発している。

屋根材などの新製品の販路開拓にインドネシアなどに進出を計画しているので、情報があればご指導いただきたい。中小企業の場合なかなか販売に結びついていないので財団等の支援をお願いしたい。

TPM(生産効率を極限まで高めるための全社的生産革新活動)の導入のため、土曜日を利用して、全社員が参加して社員教育に取り組んでいるので、複数年度にわたる支援をお願いしたい。

▶ 知事

ユニークな製品開発の取組みをしており、県としても販路開拓の支援をしていきたい。インドネシアへの販路開拓や社員教育については、県や財団にご相談いただきたい。

▶ 川田工業株

辻 巧 四国工場長



香川県が管理する道路橋も老朽化が進んでおり、50年を経過した橋梁が242橋あると聞いています。橋梁の長寿命化や耐震補強の対策を早急に進める必要があると思うがお考えをお聞きしたい。

▶ 知事

橋梁やトンネルの長寿命化や改修補強は重要な課題であるので、緊急なものから、順次、実施してきており、引き続き、他の施設も含めて整備、耐震改修を進めていきたい。

▶ (一財)阪大微生物病研究会観音寺研究所

奥野 良信 所長



新型インフルエンザワクチンの製造施設の設置に当たっては、助成や関係法令の手続きについての県の協力により短期間で整備することができた。

今後は、施設を活用して効果的で安全なワクチンを日本だけでなく世界に提供していきたい。

お問い合わせ先

公益財団法人かがわ産業支援財団 総務部 企画情報課 TEL.087-868-9901 FAX.087-869-3710